

6-3 松本城クイズ23 後戸田氏の政治・藩の職制・赤蓑騒動等

松本城管理事務所研究室

1. 2. 3. 次の系図は、戸田氏系図である。ヒントを参考にして藩主の誰にあたるかを選んで口に番号を入れなさい。

1、.....1 2、.....5 3、.....7



はなれ六つ星

- ・懇願して松本再入封した戸田光慈 (みつちか)・・・「御収納高も鳥羽とは格別ゆえ、幸の時節」・・・松本に入封時14歳。戸田十五郎を抜擢。自ら藩務に専念する。
- ・光悌 (みつよし) は、安永3年(1774)12月、21歳で家督を相続。安永の改革(勝手筋、家中改革)などに取り組んだ。治世13年、33歳で世を去る。
- ・光年 (みつつら) は、光悌の長男。約束に従って光行(みつゆき)の養子となり、寛政12年光行の家督を継いだ。文化・文政の改革を行なった。御代に二度の治城1000年祭、赤蓑騒動が(科の木の皮で編んだ赤蓑を身につけていたので)起った。

4. 享保12年(1727)年閏正月朔日(ついたち)年頭の義が終わった午後1時半頃、本丸御殿の賄所(まかないどころ)と台所境より出火し、本丸御殿が全焼した。天守等に延焼の危機があり、部下の諸士を率いて献身的な消火活動で延焼はまぬがれたと言われる。さて、この人は次の内の誰か一人選びなさい。.....②

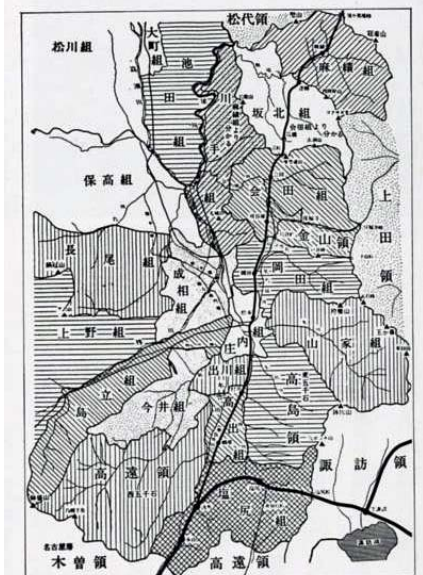
3時間のわたって燃え続け、本丸御殿総坪数905坪を焼きつくした。火勢は天守に及ぶほどであった。藩の軍務隊長の組頭戸田十五郎は、組下の諸士を率いて消火に当たる。「焰烟巻き立ち、既に命も危き程に為り、皆々天守閣より我先にと逃げ下りしかば、十五郎、其の入口に、抜身の鐘を提げて、真一文字に立ち塞がり、今我手に懸りて死し、臆病の名を取らんよりは、此の火烟を防ぎて、天守閣と死生を俱にすべし、義を見て為さざるは勇無きなりと喊びしかば・・・」(旧松本市史) 諸士は皆この仰せに従い、粉骨碎身(ふんこつさいしん：力のかぎり努力するの意)して防いだので、延焼はまぬがれたという。

5. 後の戸田氏が入封した享保11年(1726)からは、領内筑摩郡(ちくまごおり)を口組に、安曇郡(あずみごおり)を口組に分け、組には大庄屋をおいて統括した。口に入る数字を一つ選びなさい。.....③

前(さき)戸田家時代の15組制をほぼ踏襲して、次のように12組制にした。

- | | | |
|------|-----------|-----------|
| ○筑摩郡 | 庄内組(15ヶ村) | 島立組(20ヶ村) |
| | 岡田組(13ヶ村) | 山家組(17ヶ村) |
| | 高出組(14ヶ村) | 合計5組 |
| ○安曇郡 | 成相組(22ヶ村) | 上野組(21ヶ村) |
| | 長尾組(17ヶ村) | 保高組(16ヶ村) |
| | 松川組(16ヶ村) | 池田組(33ヶ村) |
| | 大町組(54ヶ村) | 合計7組 |

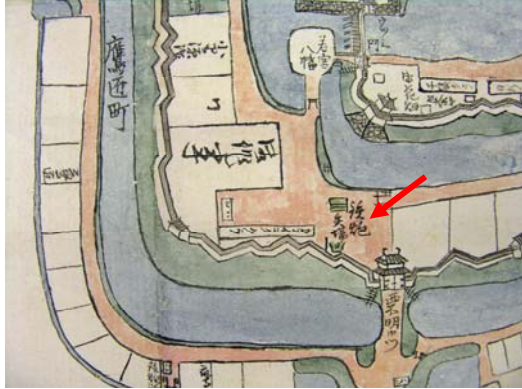
水野時代との差1万石は、幕府領(麻績組・会田組・出川組・塩尻組)に編入された。



6. 戸田家は武芸を奨励した。□□矢場や弓矢場を侍屋敷の中や三の丸・六九町に造った。また稽古場（けいこば）なども設置した。□□に入る言葉は、次のうちどれか。一つ選びなさい。

.....①

鉄砲稽古の**鉄砲矢場**を造っている。御堂町・東萩町・上下町・六九町・三の丸などに見られる。



7. 戸田氏時代の職制で、総務部・武官部・文官部・奥勤（勝手方）・江戸常詰の5つに分れ、さらにいくつかの奉行や諸役等々に分かれている。総務部には、城代・用人・目付・祐筆（ゆうひつ：もの書き）と□□が存在した。□□にあてはまる職制を一つ選びなさい。

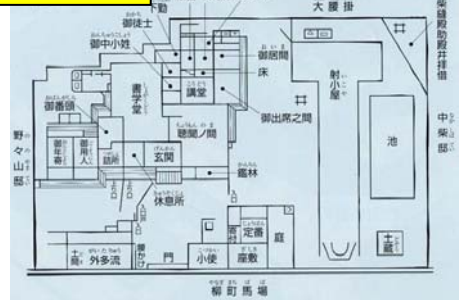
.....④

年寄である。年寄の仕事は、6～7人くらいで、庶務を担当する。藩の元老といえる。文部と武官（組頭を兼ねているため）を兼ねた棟梁である。また勝手方の長である司役を兼ねている者もいるので、奥と表両方を支配する事になる。預所司役を兼ねる者もいるので、その実権は重い。

8. 寛政5年（1793）、新町学問所が廃されて藩校が設立された。場所は三の丸柳町の400坪ほどの敷地に100坪ほどの建坪であった。朱子学を基本とし、諸士が受講を許された。さてこの藩校の名前は何か、次の中から一つ選びなさい。.....③

藩校**崇教館**は、宝暦年間（1751～64）に設けられた新町学問所を寛政5年（1793）に地蔵清水（今の市役所附近）に移したのが始まりである。漢学・筆道・弓術などが教えられ、幕末には数学・砲術・兵術なども教えられた。

崇教館図



9. 天保12年（1841）、天保改革をめぐって藩の重臣たちの主導権争いが起こった。政策上の違いと長い間に積み重ねられた藩士の門閥制や感情問題がからみ、二つの派閥が生じて、戸田氏治世のなかで最大の御家騒動が発生した。さてこの騒動を何というのか、一つ選びなさい。

.....②

門閥譜代の重臣林忠左衛門・西郷新兵衛と新参外様の戸田図書（ずしょ）・大田庄太夫間の対立である。藩政の主導権争いで対立・抗争となった。事件は首謀者とされた戸田図書ら関係者の処分（断絶、知行取り上げ、扶持取り上げ、籠居）となり一応決着した。これが**戸田図書事件**である。

10. 文政8年（1825）3月には、後戸田氏治城100年祭が盛大に藩主・領民あげて行なわれた。12月には大町北方の四ヶ庄（しかじょう）から騒動が起こった。そして次々に米屋・酒屋・商家・大庄屋・庄屋などを打ち壊して、松本城下をめざした。さてこの騒動を何と呼んでいたか、次の中から一つ選びなさい。.....④

赤蓑騒動という。12月14日に安曇郡小谷四ヶ庄から始まった。シナノキの皮で編んだ赤蓑を身につけていたことから赤蓑騒動と呼ばれている。詳しくは6-3ガイドを参照してください。